

OCT.
DE
1930

亞爾然丁時報

文藝附錄



Año V, No XXXX.

第五卷
第四十号

サボテンの影から

II 狂自生

ブエノスアイレスで豪快な生活と営んで来た此のアルフレッド氏は数日前にその愛妻と別れたので暫く遠慮する為め、一に暫く此の閑静なるエステンシアに引ついで、趣味の昆蟲採集や南アメリカのインディアンの文化、と言った様なものを研究して花や月を他所に眺めてゐるのであるが、もし生来の豪放的茶目気分が誘はれて今晩の様は調子外れの脱線的なイレセ主催でやる事がある。

英国人ミスター・ジョン・ヘーボ氏は相妻らずの強欲家で、髭くちやの顔とほめてらして、青い眼玉を輝かし下ら飲み續けてゐた。

建築技師であり昆蟲学者であり陸軍予備少佐である英人ミスター・ジョン・ヘーボ氏は曾てエジプトに放浪してその本職の建築や軍事研究をやらないで、髭くちやの顔と毎日虫眼鏡に埋め下り昆蟲類の生活やその組織などを研究してゐた一風変わった男である。

政州戦争に陸軍大尉として出征したが鉄砲は余り打たないで、野山の木の古株を探してその中に居た昆虫と戦つた時にはポケットと云ふポケットには一杯詰めておいた風変わりな代物で何時もポケットには十倍大の虫眼鏡をはかした事がない。

黒いヴェスチドをつけた半若ぶ女の校長と、白い絹のヴェスチドを着た一寸美しい女教員に紹介された時分には、もう私は可成り酔気分であつたが、その一人の校長でない方の女教員の顔を見た時には、何となく心づ醒るものと覚えたのであつた。

面長な顔、パッチリした目のある黒い目、美しい歯、スラリとした足、少し痩せてゐるが均等な調つた肉體美………
「フムなる程、一寸よい女だなア、ミ」と私は思つた。

コロンタイ女史ではないが、ある少しの時間を彼女と共に静重して意味深く費消して見たいと言ふ旧式道徳家の言葉で言へば、獸的欲望——が頭を擡げて来たのであつた。

「物にするがしな、イグは君の腕前だ、否、私の関した事じやない、コロンタイの言葉が私の頭をズすのだ。」と言つたアルフレッド氏の言葉が私の頭をズすのだ。暫くすると、私の頭の中にある一つの理性が是を否定した。

「女には注意せよ………汝の過去の失敗は皆ホ女故だ!!」と或るものガ叱る様な気がした。

けれど、部屋に漂つてゐる艶っぽい淫蕩的な雰囲気の中に呼吸して居た私は、四圍の気分に感圧されて半分麻痺した私の良心を遂々この不都合な獸的欲望が征服して仕舞つたのであつた。

踊り場は刻一刻淫蕩の巷と化して行つた。エスタンシエロは赤くほまつた頬を上げて大声で叫んだ。

「ホジエーラを擡げて踊らん、グイ………」
女達は皆、ホジエーラの端しを擡げて踊り狂ひ出した。

耐へ難い様おその熱情的な目、興奮したその息
き使ひ……。中でもベルデの着物を着たシン・ボン
パンチヤの女は殊更ら勇ましく見えた。
余り飲めぬ私は頭がガン／＼痛むので椅子に掛
けて両手で頭を押さへてゐた。
未だ酒が足りないのさ、亦た敬買と云ふ地位にある
爲め自重してゐるのか、いくら何でも女校長と女教
員はボジエラを揚げるのにもち／＼してゐた。
女校長はそれにくし気味に英人の傍に寄つて行つて
何か話し初めた。
唯一人取り残された女教員は誰れも話し相手がない
ので一寸あたりを見てゐたが私の頭を押さへて
ゐるのを見て急いで傍に歩いて来た。そして
「セニョール」と呼びかけた。私はハツと思つて頭
を上げて声の主を見た。
「ママ貴方、どうしたの？ 頭が痛いのですって……」
「彼女は親切に私に尋ねて受れた。
瞬間、私の胸は高鳴つた。私の血は逆流した。静まり
がけてゐた私の心に熱湯を浴せかけられたかの感
じがした。するとまた數秒の希望の一端が閃いて私
の目に異様に輝き初めた。
「頭痛い事なむはすつかり忘れては舞つて、その具
体的方法——彼女と口説き落す——を考へ出した。
「実は余り飲めぬのさ、飲みすぎると頭痛いので
す——誠にすみませんがカバタスのホセに水を一杯
持つて来る様に言つて受れませんか……」
「私は因々敷く思ひ切つて言つた。
「彼女はうなづいてすぐ軽い足取りで出て行つた。
「ホセは、ノヴィアと一緒に出て行つたのだ。また帰つ
て居ふい苦だ、だから一度彼女がコップに水を持つ
て来て受れるだらう。話し!! 占めた!!」

と私は独り北望笑んだ。
直ぐに次の良い方法を思ひつくと、私は座を立つた。そし
て英人に言つた。
「ホセが水を持って来たなら、ドルミトリスに持つて来る様
に言つて受れ給へ、暫く休憩して来るから……」
女校長と何か話してゐたミスター・ヘーネ氏は「イエス」
と英語で答へてから、木たジンのコップを持ち上げた。
女校長は一寸私に笑顔をして、また英人と話し初めた。

(四)

隣りの部屋では踊り狂つてゐる——賑やかな晩だ。
騒がしい夜だ——何故人間はこんなに極端から極端
に刺激を求めなければ生に満足出来ぬのさ——
と私は寢室のカマに腰掛けて、二んち取り止めもなし
手を考へながら、ホセが「否、彼女が水を持つて来
て受れるのを今グ／＼と待つてゐた。
もの、三分も待つたであらう——而し私にはそのさ
が一時も二時間もの様に永く思はれた。
「占めた!! ホセの足音はやがた確かに彼女だ!!
と思つた瞬間、私の胸はたまらなくわく／＼した。
「コソコソ」とプエルトをノックする音がした。
「私はさうも頭が痛い様に急いで左手で頭を押さへ
て、戸外に声をかけた。
「何ですか、御座りなさい……」
「戸外からは待ちに待つてゐたデルフィナの音がした。
「オ、デルフィナです……水を持つて来ました……」
私の声は確かに少しふるへてゐた。
「有り難い……御座り下さい……」

(2)

静かに戸を開けて、彼女は這入りながら言った。
「ホセさんは居ないのよ。だから妾しごと持ってきたのよ。」
「どうですか。それはほんとにすみませんでした。余り頭が痛いのでこちらに来て居るのです……」
「私は言った。彼女はコップに水をついで呉れながら心配そうに顔を上げて……」
「何故？ 貴方は飲めないのにそんなに沢山飲んだの？」
「可愛らしい黒味勝ちの目を輝け下り私に話しかけた。胸のマンサを忘れるためにね……」と答へて私は淋しく笑った。
一杯の水をさも甘まそりに飲み果すと彼女はまた一杯づいでくれた。そして椅子から立ち上って「水は此処にありますから……どうぞお静かにお休みなさい。御用があれば何時でも呼んで下さいね……」と云って出て行こうとした。
今出て行かれたら、切用の計画も画餅にぶる。よし!! この長蛇を逃してなるものかと、私は驚いて彼女に言った。
「あ、もし、デルフィンさん誠にすみませんが、ナランハジ大変欲しいのです……ホセが居なければムカマに言つて三つサ四つ持つて来る様に言つて呉れませんか。……それから——マンサナも二つ程ね……」
彼女は「……と直ぐ出て行った。」
私の頭は異様に働いた。よし、彼女が果物を持って来るまでに次の方法に移らなければならぬ。臆病では駄目だ。短刀直入に口説き落してやろう。半々は強制的でもよい。凡て女には羞恥の念があるのだ。嫌々嫌々……と小さい声で叫ぶ間は、或意味

の「諾!!」と見れば同慶はほかいのた。
最早や彼女は釜中の魚だ。俺のものだと思ひ出すと独り微笑みを禁ずる事が出来なかつた。
「ムカマは急がしいので私がつまました……」
「フチー……」も此処に……あ、い、わ、妾皮をむいて上げますわ……」
と彼女は果物を持って来ると器用な手つきでナランハの皮をむいて私に呉れた。
私はナランハを食べながら、デルフィンにマンサナを食べては如何ですかと言つた。一度は辞退した私に強いてと云つたので「……でも一つは余り沢山……貴方半分召し上げらなさい……」
と慎ましくやがて親しみのある言葉で私に言つた。「結構です。半分賞いませうさ……」
と答へながら私は彼女の顔を真正面から見た。期せずして二人の視線がハント衝突した。デルフィナは急いで目をそらして何喰はぬ顔で私に話しかけた。
「最う永い事、こちらに居らつしやるの……」
「いや三週回程前に、フェンス・ワイルスから来たばかりです。田舎はいいね。静かで空気がよくて、それに娘さん達は皆んか親切で……」
「一寸言葉も切つてから、また私は話を……」
「……でも娘さん達は皆んか……」
「……でも娘さん達は皆んか……」
「……でも娘さん達は皆んか……」
と彼女——デルフィナは私の言葉をさへぎり下ら「ナイオ」を持ってゐない人も沢山あるワ、私の学校の校長だつてお友達のヴァクトリーナさんだつて……」

愚痴る

美都三

を数回するから……

△ 人の魂って奴は不思議なものだ。この世に何やらやらんちや虫が何時もひそんでる様に思ふ。

△ そいつが、自分の感情を勝手につづいてはいろいろお氣持で——現象をまっつけ上げる。

△ 或る時は、何卒の原因ふしに物凄く憂鬱症に陥れる。又、心はすり妙に浮きくうせてとりとめもない空想を描くこともある。又、物静かな心境に居ながら、狂しい程の焦燥にいらくさせることがある。

△ その度毎に私は悩む。然しそれが又、自分自身の魂の深さと測るスケールの様にも思はれる。

△ 此の稿も、そのやんちや虫のいろく／＼を居所から生れ出た愚痴だ。

△ 創造はいつも特別あつがひを受ける。そして特別あつがひを受けなくなった時、既にその貴重な性質を失ふ。

△ 何故ならば、類型に墮する時、世人は初めてそれ

△ 藝術理論の價値は、断然個人的である。従つて藝術理論は、その作者以外の何人にも譲り渡しの出来ぬものだ。

△ しかもその理論を包含しその理論を實踐説明し、且つその理論に輝やかしい生命を附與する彼自身の作品を離れては、最早や何卒の存在價値もふい

△ 又、自身の藝術理論は、私にとつては真理であり得るが同時に他の人にとつて虚偽であり得る。

△ 然して、そういう場合が最も多い。

△ 本物は偽物に見える。そしてその「益」をも亦、言ひ得る情けふ世の中で現存はある。

△ 鳥籠の鳥は、その本末の巢に帰らすべきだ。女を愛するのは何処でもよいやうなもの、——矢張り女の家を愛するに限る。

△ 奴隷ぶしに主人は存在しない。


△ 各個人的人格を平等に認め、人道主義的個人主義とか、なんぞが、豚にでも喰はれてしまえ。

△ こんふ事は、自分のふところ、にだけ大事にしまつて置く事だ。

SIERRA DE CORDOBA
Hotel "PLAZA"
 DE
Juan Kawabata
 QUINTA JAPONESA
 UNQUILLO (F. C. C. C.)

コルドバ州
 ウンキージョ
 ホテル「プラザ」
 川端 嵩

日本御料理
 仕出し會席
末廣亭
 ハトリシオス街
 十九番
 かまぼこ調製
 配達致します



U. T. 23 B. ORDEN 5735

"CAFÈ TOKIO"
 DE
M. K. Miura & Cía.

Casa Central
 MERCEDES (Bs. As.) - U. T. 191

Sucursales
 JUNIN (F. C. P.) - U. T. 198
 PERGAMINO (F. C. C. A.) - U. T. 150
 LUJAN (F. C. O.) - U. T. 100

カエ 東京
 三浦 商店
 本店メルセデス市
 支店フニン市
 全 ペルカミーン市
 全 ルハン市

BAZAR JAPONESA
 DE
IRITZUKI y USUI
 1876 Rioja 1876

本日 雜貨店
 ソオハ街
 一八七六
 入月 武
 白井知則

FABRICANTE DE
TAPILETES y FORROS
 PARA SOMBREROS
 de paja, fieltro y panamá

A. Fernandez Vega
 Nuevo Domicilio
 Belgrano 3201-5 Esq. 24 de Noviembre
 U. T. 62 Mitre 8555

各種帽子裏地
 並に
 「タイル」
 製作販賣
 田舎の御注
 文は速達致
 します。

CAFÈ TOKIO
 DE
HOSHIDA Hnos.
 Tucuman 1099

カエ 東京
 星田 兄弟

どうふ、こんにやく
 創製 販賣
 多少に不物 配達
 新屋敷商店
 市内カリフォルニア街
 一八八四

Café JAPONES
 Casa Matriz:
CHACABUCO (F. C. P.)
 SUCURSAL:
CHIVILCOY (F. C. O.)

藤 吉 峯 佐 之 助
 田 佐 友 八

CAFÈ TOKIO
 Calle CORDOBA 373
 Suc. calle CORDOBA 493

BELL VILLE
 Provincia de Córdoba
 山口米吉 中村米助

Tintorería "EL TOKIO"
 DE
ADOLFO K. OTSUBO
 裁 喜 坪 大
 Rivadavia 5202
 U. T. 4738 Caballito

Gran Tintorería y Taller de Planchado
 "EL YOKOHAMA"
 DE
L. KAMIKUBO
 Bmé. MITRE 2511
 U. T. 7159, (Cuyo)

上久保文吉

Tintorería "IRIS"
 Santiago del Estero 163
 U. T. 38, Mayo 1166

坂本栄次郎

ALMACEN
NISHISAKA
 Calle Australia 1101
 U. T. 2915, Barracas
 BUENOS AIRES

味噌 醸造
 醤油
 たんぱく質他香の物
 西一報次弟
 配達致します
 アウストリア街
 一〇一番
 雑穀食料品商
 西坂貫太

Almacén y Bazar
 DE NAKAGAWA
 Suárez 1300 - U. T. 0869 Barracas

アルマセン
 兼バザール
中川商店
 市内スウレス街一三〇〇
 電話〇八六九(ハラク)

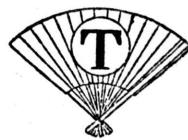
食料品、贈答品、台所道具
 日本産品類直輸入します。

DARUMA TEI
 CHACABUCO 770
 U. T. 0243, Avenida

日本御料理
 會席兼に仕出し
 餅、かまぼこ、すし、やき
 炙り、おん、など
 だるま亭
 松田清市
 チマカフコ街七七〇
 電話〇二四三(アエト)
 出産御禮等の祝の餅
 注文文に應じます。

—Almacén, Shipchandler y Bar de José Tomisaki—

良品廉價。目正確。
配達敏速。薄利多賣。
弊店は右の信條を徹底的に
實行して居りますから邦人間
にも外人間にも絶対の信用と
傳へて居ります。



富崎商店

フエンスアイレス市
元ナカリアス街
南五十四番
電話：一七三六番
(バラックカス)
電信番号トミサキ
事務所
市内マカシネス街
一三三〇番

白米・雜穀
日用食料品
牛豚肉販賣
酒類各種
船舶御用商

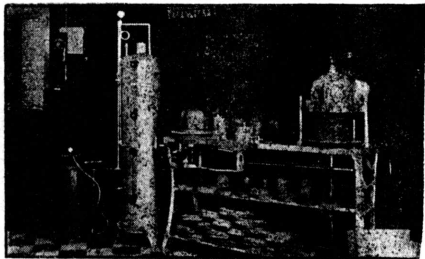
ESCRITORIO
MAGALLANES 1230
U. T. 21, Barracas 2628

Cable Address: "TOMISAKI"
HERNANDARIAS 1544

Unión Telefónica (21) Barracas 1736
BUENOS AIRES

New-York LIBERTAD 179 Bs. Aires
U. T. Libertad 3395
FABRICANTES MAQUINAS PARA PLANCHAR SOMBREROS
Industria Argentina - Patentes 27343-29255-98920

MODERNAS



ECONOMICAS

帽子プレス機
○取扱極めて簡
単一日の仕上能力
八百七十個
○日本入染色店
請店にて御買上
の染を賜ふ所
あります。
拾ヶ月拂で
販賣致し紳
士御用を
請ひます。

BILLARES
BRUNSWICK



Barandas "MONARCH"

Material preferido en las casas de primera categoría

Venta a plazos
SIN RECARGO DE PRECIOS

CANGALLO 1818 Buenos Aires

U. T. 47, Cuyo 3018 - 3019

Hotel y Pensión
JAPONES
DE
HIGA Hnos.
Calle BOLIVAR 440
Posadas Misiones

比嘉榮一兄弟

Dr. J. P. MUNZINGER
Médico Cirujano
178-Lima-188
U. T. 1164, Rivad.
Buenos Aires

独之病院附
日會顧問
醫師
ムンシンガー

Cafe "TOKIO"
DE
EIJI NAKAMA
TANDIL F. C. S.

タンチール市
カネ東京
中間栄二

Enrique Moreira

Despachante de Aduana

Importación y Exportación

Reconquista 144
Escritorios 21 y 22

Unión Telefónica 3383, Avenida

續手関通
ライモケリンエ

The Japan Bar

25 de MAYO 427 al 37
U. T. Retiro, 0675

弊店は
バタ克蘭とコスモポリタン西劇場
の前にありまして常設の
美人音楽團は遠來者の誘情
を慰むるに充分です
ジャパンバー
中休ベインストンゴヤール街
四七番
新垣徳衛大城永清
船員諸君は特に懇切丁寧に待遇也

Bar - Café y Billares

"Tokio"

BELGRANO 502 esq. Bolivar

U. T. 33, AVENIDA 4614

「東京」
バル
宮園新之助
梶山島
内田貴像